

ズバリ!

石岡市の財政状況は大丈夫?

お金の使い方の健全具合をチェックする4つの

指標の総称は健全化判断比率といえます。

この比率の平成29年度の算定結果は「健全段階」でした。

健全だという理由

普通会計の赤字額を示す「実質赤字比率」と特別会計を合わせた全会計の赤字額を示す「連結実質赤字比率」はどちらも「赤字なし」を示しています（下表参照）。

28年度に引き続き、赤字ではないため健全な状態であるといえます。

とはいえ、

厳しい借金返済率

平均的な年間収入に対する借金返済額の割合を示す実質公債費比率は、28年度と同様の9.4%と、早期健全化基準の25%を大幅に下回りました

（下表参照）。

しかし今後、上曾トンネルやごみ処理施設の建設事業などで公債費が増加していくことが予想され、人件費や扶助費など継続的に支出する経費も90・8%という高い割合を占めているため、楽観視できない数字です。

将来世代が負担する借金

長期にわたり使用する施設の整備費用は、世代間の費用負担の平等をなくし、次世代にも負担してもらおうように地方債を借りながら事業を行っています。

将来負担比率とは「市が将来負担することが見込まれる

借り入れなどの総額」を「平均的な年間収入」で割り返した数値で、高いほど財政が圧迫されているということの意味します。

29年度は31・6%と、28年



度と比較すると15・2%減少しました。理由は、地方債の現在高が減ったことと、公共施設や学校施設等の整備に必要な財源を積み立てている基金が増えたためです。

財政健全化のため、

事業の重点化・効率化を進めます

進めます

今後、上曾トンネルやごみ処理施設建設で歳出は増大しますが、財政運営は難しい状況にあります。財政健全化に向けて、スクラップアンドビルドを基本とする事業の重点化・効率化を進めます。

■ 財政の健全化を判断する4つの指標（＝健全化判断比率）

早期健全化基準は、地方債の借り入れの制限や国から予算変更などの勧告を受けるレッドゾーン手前のイエローゾーンを指します。

指標	内容	結果	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし (マイナス6.11%)	12.6%
連結実質赤字比率	一般会計のほか、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の割合	赤字なし (マイナス12.28%)	17.6%
実質公債費比率	市の平均的な年間収入に対する借金返済額の割合	9.4%	25.0%
将来負担比率	市の平均的な年間収入に対する将来負担が見込まれる負債（借金）の割合	31.6%	350%

※石岡市の借金返済額の割合（実質公債費比率）は県内で7番目の高さで、経費の削減が求められています。将来負担比率は高い方から県内24番目。（平成29年度の県内の状況は取りまとめ中のため、平成28年度決算の順位）

■ 水道、下水道・農業集落排水は資金不足なし

健全化判断比率とともに算定したものに、公営企業にかかる資金不足比率があります。この比率は、事業規模に対する資金不足額の割合を示すもの。石岡市の公営企業である水道、下水道・農業集落排水の各事業では、いずれも資金不足は生じませんでした。